

～「初期生育促進」→「適期中干し」→「穂肥施用で登熟向上」～

## コシヒカリ出穂期は平年より1日程度早い見込み 高温気象に対応した後期栄養対策で高品質米確保！

- 出穂期が平年より早い見込みのため、幼穂長と葉色を確認して適期に穂肥を施用
- 全量基肥栽培では飽水管理で肥効を促し、出穂期 10～3 日前に追肥の要否を判断
- 生育状況と気象予報を考慮し、後期栄養を確保する穂肥対応と飽水管理を実施
- カメムシ類による斑点米発生防止のため、除草と本田の適期薬剤防除を実施

### 1 生育状況

草丈「やや長い」、茎数「並」、葉数「並」、葉色「並」

コシヒカリ生育状況（対指標値）：6月30日現在

水稲生育調査結果（6月30日現在）

品種名	草丈 (cm)		茎数 (本/m <sup>2</sup> )		葉数 (L)		葉色 (SPAD)	
	本年値	指標比	本年値	指標比	本年値	指標差	本年値	指標差
コシヒカリ	58	105%	471	98%	10.4	+0.3	38.2	+0.2
こしいぶき	61	114%	686	129%	10.8	+0.3	43.7	+5.7

コシヒカリは管内17ほ場、こしいぶきは管内3ほ場の平均値

### 2 出穂期予想と穂肥施用

&lt;幼穂形成期・出穂期の予想と穂肥の目安&gt;

※早生品種は5月第1半旬移植を想定

品種名	幼穂形成期注1 月/日	出穂期 月/日	穂肥時期 月/日 (出穂期前日数)		2回目穂肥 時期の葉色 めやす (SPAD)	2回合計の 施用量注2 N成分 kg/10a
			1回目	2回目		
五百万石	6/24	7/17	6/27 (20)	7/5 (12)	38	1.0～2.0
わたぼうし	6/26	7/19	6/27～29 (22～20)	7/7～9 (12～10)	38	2.0～3.0
ゆきん子舞	6/27	7/20	6/25～27 (25～23)	7/6 (14)	36～38	4.0～6.0
こしいぶき	6/29	7/22	6/29 (23)	7/8 (14)	36.5	2.0～3.0
こがねもち	7/6	7/29	7/11～14 (18～15)	7/19 (10)	32	1.0～3.0
連休植 コシヒカリ	7/10	8/2	7/15～18 (18～15)	7/23 (10)	32	1.0～3.0
5/10植 コシヒカリ	7/12	8/4	7/17～20 (18～15)	7/25 (10)	32	1.0～3.0

注1：幼穂形成期は、幼穂長1mmを超える茎が調査区全体の8割を超えた日、出穂期の23日前頃。

実際の幼穂形成期・出穂期は、天候により前後するので、幼穂や生育状況をよく確認する。

移植日が5日前後すると幼穂形成期・出穂期は1～2日前後する。

注2：砂壤土などの地力の低いほ場では、窒素成分で1kg/10a程度多めに施用する。

### 3 コシヒカリの穂肥対応 ～穂肥の要否を必ず確認し適期に施用！～

#### (1) コシヒカリの穂肥診断

##### 1 回目穂肥時の生育量の目安

	コシヒカリ(出穂前 18 日)	注意点
幼穂長	1 cm	これより草丈が長い・葉色が濃い場合は、遅め・控えめの施用、または施用しない。
草丈	78 cm 以下	
葉色	SPAD 値 34 (葉色板・単葉 4.2) 以下	

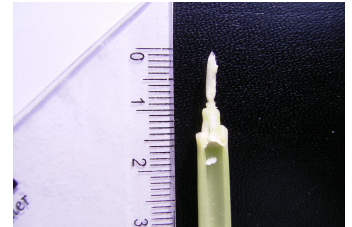
#### 幼穂長と出穂前日数 (コシヒカリ)

出穂前日数	幼穂長
30 日前	0.02 cm
24 日前	0.1 cm
20 日前	0.2~0.4 cm
18 日前	0.5~1.0 cm



確認

#### [幼穂の確認方法]



※写真は 1cm(コシカリ)

#### (2) 穂肥施用のポイント

##### ア 分施肥栽培の 1、2 回目穂肥

- 1 回目の穂肥施用は、幼穂長、草丈、葉色を確認し、施用時期と量を決定する。
- 2 回目の穂肥は、出穂 10 日前 (1 回目穂肥を遅らせた場合は 1 回目の 7 日後) に 窒素成分 1.5kg/10a 程度を施用する。

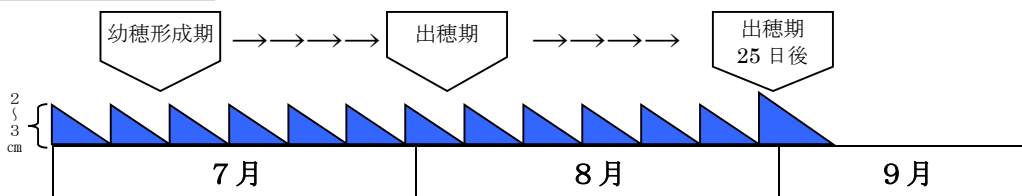
##### イ 後期栄養確保の対策 (分施肥栽培、全量基肥施肥栽培とも)

- 気象予報や葉色の推移を考慮し、出穂期の葉色が SPAD 値で 33(葉色板・単葉 : 4.5) を下回ると予想される場合、出穂期頃までに窒素成分で 1 kg/10a をめやすに追肥する。  
特に、登熟期間が高温・多照予報の場合は、栄養不足にならないよう施用する。
- 必要な場合は、流し込み肥料など省力化肥料も活用して必ず施用する。

### 4 水管理 ～早期落水厳禁！品質重視の水管理を徹底しよう～

- 幼穂形成期以降、出穂期 25 日後までは確実に飽水管理を継続し、登熟向上を促す。
- フェーンや異常高温が予想される時は予め湛水し、乾害や高温障害の発生を防止する。
- 出穂期の遅いほ場は、最終かん水で十分湛水し、出穂期 25 日後まで土壌が濡れている状態を継続する。

#### 飽水管理のイメージ



※中干し後は間断かん水を行い、徐々に飽水管理に移行する。

### 5 斑点米カメムシ対策 ～高温で発生が増える可能性あり！今年も要注意！～

- 除草：早生品種の出穂前に農道・畦畔の草刈りを必ず行う。  
その後も雑草が結実しないよう、こまめな除草を継続する。  
虫の増殖場所となる 本田内のヒエやホタルイも除草を徹底する。
- 防除：薬剤防除は出穂期 3～7 日後に、ほ場全面へ散布を行う。  
水面施用粒剤は、水深 3 cm 程度の浅水条件で散布し、散布後は飽水管理を徹底する。  
※無人へりの防除日が出穂期から 10 日以上空くほ場は、上記防除を追加する。